

社会福祉法人あゆみ会 特別養護老人ホームアンパス東大阪

平成 30 年度事業報告

1、総括

平成 30 年度は、特別養護老人ホームが地域包括ケアシステムの拠点として機能・役割を発揮し、高齢者のみに限らず地域の福祉ニーズに柔軟に対応することで社会貢献に努め、公益性、地域に密着した施設作り、安定的かつ良質的なサービス提供を行った。

公益事業として、10 月より、東大阪市が地域の施設と一緒に小学生対象の学習や食をサポートする、「学習を伴う子どもの居場所づくり」、「アンパス食堂」を開始した。

現在特養における平均介護度は 3, 8、平均年齢 86 歳である。入所者の医療ニーズ、看取りケア、認知症ケアの実践に取り組んだ。看取りケアについては、介護職、看護職が連携を図り 3 名の方を対応した。

サービスの質の向上については、東大阪市介護相談員派遣事業を入所部門に加え、通所部門で開始する。入所者、利用者から介護サービスに関する不安や不満などの意見を抽出し可視化することでサービスの質の向上に努めた。また、第三者評価を受審することで、利用者を主体としたサービスの質の向上に向けた取り組みを行った。

人材の確保・育成については、新卒者 2 名採用。トレーニング期間を経て、10 月より夜勤業務を開始。育成面では、介護プロフェッショナル段位制度の活用、部署ごとの研修会、外部研修などを通じ、スキルアップを目指した取り組みをおこなっている。また、実習生（大阪医専専門学校、アナン学園、関西福祉科学大学、東大阪短期大学）を積極的に受け入れることで、将来の人材確保に向けた取り組み、職場環境の活性化を図った。また、中堅職員を中心として「プロジェクトチーム」を発足。働きやすい職場環境に向けた取組を行っている。※資料③④ページ

運営面については、特養平均稼働率は 93, 9%（前年 93, 5%）、デイサービス、平均人数 27, 3 人（前年 29 人）。人員面など厳しい状況が続く中、職員が一丸となって、数字やコストを意識して業務に取り組んだ。

設備面については、老朽化に伴う、改修改善が必要な状況であり、計画的に進めることによって、利用者、職員の安全面に配慮することで、快適な環境づくりを行った。

※資料⑤ページ

重点目標

- ①特養における人材確保を早急に行う（夜勤専従者、パート職員の活用）
（職員一人あたりの夜勤回数、残業を減らす。有給休暇取得を目指す）
- ②デイサービスにおける認知症ケア、リハビリ強化による質の高いサービスの実現
- ③地域包括支援センター（東大阪／池島）を主体とした地域づくり
- ④大規模修繕（ナースコール、厨房機器、車椅子、ベッド、LED電球）の実施

2、各事業報告

□特養

重度化する入所者の医療や看取りのニーズに対応するために、施設内の他職種連携協働、地域の医療機関との連携の強化を意識してケアの実践に取り組んだ。

喀痰吸引研修（2名受講）、認知症研修、勉強会を通じ、ケアの質の向上、利用者を中心としたケアの実践に取り組んだ。具体的な取り組みとして、「夢かなえ企画」を発足。平均稼働率は93.9%（前年93.5%）入院による空床があり、目標の稼働率に達成することは出来なかったが、ショートステイでは、高い稼働率を維持することで安定運営につなげた。

□看護課

利用者の日々の健康管理に努め、わずかな変化も見逃さない様に、介護職との密な連携を図り、嘱託医の指示を仰ぎながら安心した質の高い生活を送っていただける様にきめ細やかなケアを行った。

年間受診件数 403件 看取りケア 3件

□デイサービス

一般デイについては、中重度ケア体制加算、個別機能訓練加算の取得により質の高いサービス提供を行った。認知症デイサービスについては、個別ケアを重視し家族との連携に努めた。また、運営推進会議を実施することで、関係機関と連携を図り地域に開かれた運営を目指した。

平均人数27.3人（前年29人）、目標数値には届かず。入院、ショートステイ、入所に移行する方が多くみられた。

□ヘルパーセンター

デイサービスからの職員異動により、2名のサービス提供責任者を配置。登録ヘルパーの確保に苦戦し、新規利用者受け入れに支障をきたす。人材を確保することで安定運営を目指していく。

□栄養課

給食会社と連携して、食事を楽しめ（食事環境も含め）、栄養の富んだ質の高い食事を提供することにより、利用者の生活の質の向上を目指した。また、デイサービスだけでなく、特養でも選択食を取り入れ、利用者に食事を選択する楽しみや自己決定の支援につなげた。

□居宅介護支援事業所

3名のケアマネジャーを配置。次年度より1名増員。地域包括支援センターからの困難症例や医療度の高い方に対して、必要な知識や技術を取得し質の向上に努めた。自法人と連携を図り、相談窓口の機能の強化を目指した。

□地域包括支援センター 東大阪／池島

地域共生社会の実現に向け、地域包括ケアシステムの中核機関として、行政、医療、介護等関係機関や地域との連携を図りながら、高齢者の尊厳の保持と意思決定を尊重し、より身近な相談窓口として、地域の実情に合わせた丁寧な対応と運営に取り組んだ。

※資料⑥⑦ページ

平成 30 年度 社会福祉法人あゆみ会
大和川地域在宅サービスステーションアンパス住吉
事業報告

1、振り返って

平成 30 年度は重点目標の第一に掲げていた「数値目標の意識付けの強化」をもとに職員一丸となって取り組んで参りました。

当施設の運営基盤である通所介護事業におきましては「平成 30 年度末までに一日平均 37 名を超える」という数値目標は達成出来ませんでしたが、上期は目標を上回るペースで順調に推移していたため、一年を通しては予算を上回る結果となりました。訪問介護事業の冬場の落ち込みや、居宅介護支援事業の伸び悩み等はありませんでしたが、施設全体の収支としましては 7,804 千円のプラスで着地することができました。

もうひとつの目標として掲げていた「職員の教育」についてですが、平成 30 年度は今までになく職員一人一人が積極的に外部研修に参加し、大いに成長を実感できた年となりました。

平成 30 年度は台風が多く発生した年でもあり、当施設でも外壁が剥がれ落ちる被害がありました。設立から 19 年目を迎えており建物の老朽化も原因とは思われますが、今後は経年劣化による修繕や機器の入れ替え等も計画的に進めていく必要性を痛感した一年となりました。

2、平成 30 年度 重点目標

(1) 数値目標への意識付けの強化

上期は年度のスタートより数値目標に意識を持ち業務を進めていくことができたため、それが結果としてあらわれていましたが、下期は少し気の緩みも出たのか、思うように数値を伸ばすことができませんでした。これからも全体会議や日々の業務の中で数値を意識した議論を活発に行えるよう、職員一丸となり取り組んで参ります。

(2) 安定した人材確保

①『職員満足度向上委員会の継続と発展』

平成 29 年度に立ち上げたこの委員会を継続することができており「職場の人間関係」や「働きやすい職場」の改善に取り組んでいます。職員の親和欲求を深めることで会社への帰属意識も高まり離職率の低下にも貢献できていると実感しております。

②『職員の教育』

外部研修計画に基づき、積極的に参加することができ、職員の成長欲求に働きかけることができました。また施設に講師を招いて内部研修も実施でき研修計画通りに進めることができました。今後も継続して人材教育に注力して参ります。

3、各部門運営

(1) 通所介護事業

平成 30 年度の実績データとしましては、⑫ページの「デイサービス月平均利用者数」と、それをグラフ化した「デイサービス月平均利用者数の推移」をご覧ください。平成 30 年度の状況としましては、12 月までは目標を上回るペースで順調に推移していましたが、冬場に予想以上の落ち込みがあり、平成 30 年度末の目標としていた一日平均 37 名という数値は達成出来ませんでした。しかし上期終了時点ですでに 36 名を超える利用者数にまで到達していましたので、一年を通しては予算を上回る結果となりました。

平成 31 年度のスタートも冬場の利用者数減少から現在もまだ持ち直しておらず厳しい結果となっており、当施設の運営基盤である通所介護事業を堅実に運営できるよう利用者獲得へ向けて尽力して参ります。

(2) 居宅介護支援事業

⑬ページの「ケアプラン作成件数一覧表」にて各年度の月平均ケアプラン数をご確認ください。平成 30 年度の状況としましては、12 月末までに 70 件（予防 1/2 とする）を目指しておりましたが、12 月時点で 67 件と達成できず、それ以降も伸び悩み一年を通して平均 63.7 件と前年比ほぼ横ばいという結果となりました。

平成 31 年度は、一年を通して 65 件を維持できるように業務を遂行し、目標達成できるよう邁進していく所存です。

(3) 在宅介護支援事業

平成 30 年度は数値目標である総合相談の実利用者件数 60 人を大幅に超えることができ、開設以来、初めて評価基準の 120 人を超えることができました。

今後も保険者や地域包括支援センター、地域のボランティア、医療機関等との関係性を強固なものにし、各事業に波及効果をもたらす大和川ランチの安定的な継続のため尽力して参ります。

(4) 訪問介護事業

⑭ページの「訪問介護実績」をご確認ください。平成 30 年度の状況としましては、実利用者数、総提供時間数ともに 10 月までは順調に増加していましたが、冬場に落ち込み、数値目標である総提供時間 90 時間は達成できませんでした。

今後も在宅介護支援事業や居宅介護支援事業との連携に力を入れ、目標を達成できるよう努めていく所存です。

以上

1. 振り返って

平成 30 年度は、新たな保育所保育指針の中で保育所も幼児教育施設であると明記され、今まで以上に養護と教育が一体となった保育を展開していくことを意識しました。幼児教育といっても読み書きを教えるのではなく、遊びが学びに繋がっていることを改めて意識しながら保育をおこない、子どもの姿を共有しました。

また、今回の改定では「保護者に対する支援」から「子育て支援」と記述が変わり、保育所を利用している子どもの保護者だけではなく、保育所を利用していない子どもを含めた「すべての子どもと子育て家庭」の支援を使命として取り組むことを求められています。前年度は、人材不足で一時預かり事業の運営が円滑にいかず、園庭開放の利用者数も減少したため、本年度は人材確保と地域の子育て家庭に対してニーズの把握を積極的におこない、子育て支援の拠点となるように取り組みました。その結果、一時預かり利用者数は 1.5 倍程増え、次年度も引き続き地域支援に努めます。

2. 重点目標

(1) 質の高い保育の実現

保育者自身が自らの実践の意味を理解し、意識化しながら保育活動を行いました。まずは、園内で研究保育を実施し保育について深め合う時間の中で子どもの姿を具体化した後、各年齢別保育のねらい、子どもの姿、育てたい力について話し合い共有しました。

今後は、質の高い保育の実現には職員の人間力が大いに関係していると考え、子どもたちに生きる力を育むためにも職員が自発的に自己研鑽をおこなうような組織づくりを目指します。

(2) 健康及び安全

本年度から体操服を導入し運動あそびやサッカーの時間だけでなく、習慣的に遊びのなかで体を動かすことにより、運動することが好きになり「体を動かすことが楽しい」と思える環境づくりを行いました。日々の遊びの中で運動目標を達成することによる達成感の獲得や次への期待感、好奇心にも繋がったと感じています。

食育を通して、健康な体づくりと食べることが好きになり、調理する人への感謝の気持ちが育つよう食育活動をおこない、そのほかにも助産師による命の誕生についてパネルや模型、映像等で学ぶことにより、自らの身体「命」を大切にする気持ちや周りの人たちへの感謝の気持ちを育むよう取り組みました。

3. 運営

昨年 6 月に大阪府北部を震源とする地震が発生し、小学校、自治会、地域の方々との協力体制づくり「共助」が重要であると改めて認識しました。平時からの準備の大切さを痛感し避難訓練の年間計画やマニュアル等を見直し、課題を整理して今後に備えていきます。これからも保護者とは、よい子ネット(※)や電話で連携を図り、災害用伝言ダイヤル「171」を活用し防災意識の向上に努めていきます。また、被災時に困らないよう備蓄食料品、簡易トイレ、雨水タンクを有効に活用できるよう

日々の活動の中でも使用していきたいと考えています。

地域に根差した保育園であるためにも、人材の定着、人財育成が必須であると考え、職員が働き続けたいと思えるよう処遇の改善、キャリアアップやキャリアパスの構築を段階的かつ計画的に今後も継続していきます。

(※)「よい子ネット」とは、インターネットを利用してパソコンやスマートフォンにより、保護者と園をつなぐシステム。

施設のホームページ機能、メッセージ送信機能を持ち、防犯・防災等の緊急のお知らせにも活用できる。

(1) 児童数について

H31年3月31日現在

クラス 年齢	合計	ひよこ 0才	うさぎ 1才	ぱんだ 2才	きりん 3才	くま 4才	らいおん 5才
人数	119	13	18	20	22	23	23

(2) 保育活動について

① 通常保育

◆ 給食

株式会社マルワに業務委託

毎月の誕生日会、郷土料理、世界の料理、行事食、夏祭り軽食、餅つき、流しそうめん、アレルギー対応食

◆ 健康支援（全園児対象）

内科検診（6/11、10/22）：たけなかキッズクリニック

歯科検診（6/12）ブラッシング指導（6/12）：松浦歯科医院

職員検便（乳児、一時保育担当は毎月、他は半年）実施

身体測定毎月実施

◆ 安全対策・事故防止、防災

防犯教室（10/17に北堺警察防犯課指導）実施

「171」災害用伝言ダイヤルの活用（11/1、11/15、1/15）

地震を想定した避難訓練（7回）実施

火事を想定した避難訓練（12回、10/19に消防立会い訓練）実施

不審者を想定した避難訓練（10/11に北堺警察立会い訓練）実施

※資料3参照

◆ 環境・衛生管理

砂場の殺菌洗浄及び補充：株式会社ダックス（4月）

害虫殺鼠等駆除通年実施：阪南衛研

蚊の防除活動（4月～10月）：堺市保健所 生活衛生センター

◆ 保護者・地域支援

<保護者>

お便り（園、クラス、保健、食育、運動）発行

クラス懇談（9月：乳児）個人懇談（6月：幼児、1月：全園児）

<地域活動・子育て支援>

子育て支援サークル（どんぐり広場）へ保育士1名派遣（6/22）

校区遊ぼう会へ保育士1名派遣（9/11）

㊦世代間交流…アンパス住吉、おふろ倶楽部、リビングかずほへ、年1回2クラス合同で訪問と、4～5人1グループ訪問を4月より行う。

長曾根住宅老人会「ひまわり」へ訪問（10/30）

ケアライフ ハーモニー堺へ訪問（10/17、10/26）

※別紙資料3参照

㊧異年齢児交流…園庭解放（原則月2回、延べ333名）

㊨育児と仕事両立支援事業…離乳食懇談（5/12）、長尾中学校職業体験2名（10/3、10/4）

㊩在宅子育て家庭支援事業…乳児訪問（17件）

㊪職業体験事業…五日間の夢体験1名（7/30～8/3）

上記㊦㊧㊨㊩㊪は堺市補助金事業

◆ 苦情

苦情申し出件数…1件

◆ 特色のある保育

自然と親しむ活動として、じゃがいも掘り（5/29）みかん狩り（10/25）

金岡公園や大泉緑地公園等近隣公園への散歩や散策

マラソン大会実施（3/15：金岡公園にて）

運動遊び 72H／年（39回）

高齢者との交流（上記㊦）

② 特別保育

「延長保育事業」対象期間…午前7時00分～7時30分、午後6時30分～8時00分

利用実績…延利用児童数607名（前年度1,368名）

「障害児保育事業」特別支援対象児2名、年2回巡回指導

他、保護者より子どもの発達について相談あり、堺市と連携を図る。

「一時預かり事業」利用定員…一日4名（前年度3名）

利用実績…延利用児童数587名（前年度398名）

（3）職員について

一年を通して入職者4名（非常勤4名）と退職者3名（非常勤3名）でした。

① 配置状況

H31.3.31 現在

	施設長	保育士	無資格	調理員	栄養士	事務員	看護	用務	計
常勤 ※1	1	17	1	委託	委託	1			20
非常勤		8	1 ※2	委託	委託		1	4	14

※1 週 40 時間勤務者 ※2 次年度常勤予定（新卒保育士） ※育児休暇中 1 名を除く

② 研修（外部・内部）

資料 1、2 参照（⑱～㉑ページ）

4. 運営方法

【クラス責任者会議】（山下、平井、隅谷、炭谷、前川、増田、谷山）

毎月 1 回定期開催、クラス間の連絡調整、行事の起案・調整、他

【職員会議】（全職種）

毎月 1 回定期開催、全体行事の打ち合わせ、外部研修のフィードバック研修等情報の周知

【係りの会議】

・食育会議：月 1 回（12 回）

給食会議：月 1 回（12 回） （株）マルワ職員との会議

・健康管理会議： 5/11、8/6、9/19、11/13、12/4、1/16、2/13、3/13（8 回）

・リスクマネジメント会議： 5/16（1 回）

・次年度会議：3/23（1 回）

・運営委員会会議：3/13、3/27、3/30

5. 年間行事報告

資料 3 参照（㉒ページ）

6. 実習生・ボランティア受入れ

（1）看護実習生

大阪労災看護専門学校：平成 30 年 2 月 5 日～10 月 10 日（3 年生） 45 名

平成 31 年 2 月 21 日～2 月 14 日（3 年生） 4 名

（2）保育実習生

常磐会学園大学：平成 30 年 9 月 3 日～9 月 15 日（3 年生） 1 名

（3）ボランティア

関西大学第一中学校：平成 30 年 11 月 2 日（2 年生） 5 名